

Genus *Breviurella* n. g. ヒメトクサ属

Type species: *Terebra lischkeana* Dunker ヒメトクサ

原殻は凸門錐形である。殻形は本科の中形ないし小形の諸種に似る。彫刻は縦肋が幼層から体層まであり、縫合下帯を区切る刻点列は中途から始り、又縦肋の他に縦又は螺旋状の細脈がある。

*B. lischkeana* (Dunker, 1882) ヒメトクサ(トクサ)

*B. awajensis* (Pilsbry, 1904) アワヂタケ

OYAMA 1961 Venus 21 p. 127

*Breviurella* Oyama, 1961, Venus 21 (2): 187. Type species, *Terebra lischkeana* Dunker, 1877 = *T. japonica* E. A. Smith, 1873, recent, Japan.

B & C (1987)

*Breviurella* Oyama, 1961 ヒメトクサ属

本属は多かれ少かれ沿岸水が充達する所に棲み、現生2種は本邦特産である点で注目される。又沿岸水の要素であるため化石の報告も少ない。

*B. lischkeana* (Dunker, 1882) ヒメトクサは種子島から茨城県と秋田県の安田(現生)を北限とし、瀬戸内海にも産して各地の海岸に打上げられるが、生息深度は40m. 位まで及ぶようである。化石も報告が多く、御宿の完新統・関東東海地方の更新統や鮮新統の各地(成田層群・宮田層群・長沼層・上総層群・大目層等)から報告された。

*B. awajensis* (Pilsbry, 1904) アワヂタケは前種ほどは多産しないが、九州から房総半島の鵜原と山形県の堅峯沢とを北限とし、瀬戸内海にも産し、生息深度は数m. から125m. まで報告された。化石は成田層群や新潟県の柄尾から採集された。

*B. "cf. woodwardiana* Martin" Makiyama, 1927 はジャワ原産で大目から報告された。

*B. ? orthoplicata* (Nomura et Zinbo, 1934) キカイヒメトクサ(新称)は喜界ヶ島の化石として報告された。

OYAMA 1961 Venus 21 p. 114